



しば やすお
芝 安雄 氏

(本名 芝 安 男)

生年月日 大正 10 年 1 月 25 日生

住 所 田辺市本宮町皆地

大正 10 年 (1921 年) 1 月 25 日、東牟婁郡四村 (現田辺市本宮町皆地) に生まれる。

熊野本宮大社にほど近い山あいにある本宮町皆地地区では、平安時代末期から熊野詣に使われた笠を編んできたと言われていた。笠は上皇から貴族、庶民まで身分に関係なく広く愛用されていたことから、もともとは「貴賤笠 (きせんぼ)」とも呼ばれていたが、いつからか特産品として産地名で呼ばれるようになり、現在は皆地笠で知られている。

先代である、氏の父も祖父も細工師として活躍し 3 代目を継承。幼少より茶摘み籠を作っていた父の手伝いを通じてその技法を習得。皆地笠のほか、修験者がかぶる「阿闍梨 (あじゃり) 笠」など、奈良や京都の神社仏閣で使われている笠も氏が手がけ、さらに茶道の家元好みの炭斗 (すみとり) など茶道具も桧細工で作る技と作品が各方面で高く評価され、昭和 60 年 (1985 年) に黄綬褒章を受章。

また、伝統工芸の伝承にあたり、比較的世間に知られず、報いられることも少なく、苦勞を重ねている人々に光を当て顕彰する「日本キワニス文化賞」を平成 12 年 (2000 年) に受賞。

戦前には 8 軒ほどの工房があり、材料の切り出しや桧をカンナで削り短冊状にした「ひよ」作りなど、作業を村全体で分業し、林業や農業関係者からの引き合いもあり、九州や四国などにも出荷していた。戦後、急速な経済成長により生活文化の様式も変わり、従事者も減少の一途を辿り、昭和 30 年代後半には当人 1 人を残すのみとなった。

平成に入ってから、後継者を育成するために和歌山県などの支援で、何人かの弟子を取り、伝承を試みてきたが、原材料の調達や製材、製作や販売など全般にわたるため、技法の伝承に至らなかった。

このような苦境の中にあっても、平安時代から続く伝統と技法を長年にわたりただ一人守り続けてきた功績は誠に偉大であり、90 歳を越えてもなお現役で活躍されている。

第 47 回 (平成 28 年)

(略 歴)

昭和 8 年 (1933 年) 四村尋常高等小学校皆地分校卒業

(受賞歴)

昭和 53 年 (1978 年) 和歌山県名匠表彰

和歌山県政功労者表彰

昭和 60 年 (1985 年) 黄綬褒章

平成 12 年 (2000 年) 日本キヲニス文化賞